



水道橋畔発

Transmission from SUIDOUKYOUHAN

第18号 平成25年6月

新病院長挨拶 21世紀型歯科大学病院をめざして

病院長 矢島安朝



この度、6月1日付けをもちまして、東京歯科大学水道橋病院長を拝命いたしました口腔インプラント学講座の矢島安朝でございます。もとより浅学非才で身に余る重責ですが、今後は水道橋病院の理念である「思い遣りの心に依る医療」を念頭に、病院職員全員とともに誠心誠意努力を重ね、医療連携のさらなる改善と、先生方ならびに国民に信頼される病院運営に邁進して行く所存でございます。何卒、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

「21世紀の医療・歯科医療の方向性」は図のように広く理解されています。「患者中心の医療」と「根拠に基づいた医療」の2つが大きな柱となり、「患者中心の医療」では、「患者との信頼関係の確立」、「患者サービス」、「医療安全・医療倫理」が重要であると思われま。信頼関係の確立には、当然、医療従事者に高いコミュニケーション能力が必要であり、患者サービスでは、職員全員の思い遣りの心、ホスピタリティが重要でしょう。さらに医療安全・医療倫理には、私たちのノーブレス・オブリージュ（noblesse oblige: 塩野七生はこれを「高い身分に伴う道徳的な義務」と意識）を意識した行動が不可欠だと考えています。一方、「根拠に基づいた医療」には、「利用可能な最善の科学的根拠（論文）」があることだけでなく、「患者の価値観や期待」を十分に把握し、私たちが持っていなければならない高い「臨床専門技能」が必要と考えられます。これらの方向性は、まさしく、当病院の理念を具象化するための方略であると考えております。

水道橋病院は、移転計画の第一期工事の完成とともに新しい病院となりました。しかし、これは病院としての器が変わっただけであり、「患者中心の医療」や「根拠に基づいた医療」を担保するものではなく、これらが実践できるためには、私たち水道橋病院の職員全員が一丸となって、更なる高みをめざし、「21世紀型歯科大学病院」を構築しなければならないと肝に銘じております。そのためには、まず、職員個々が自らの知識、技術、コミュニケーション能力の向上に励む必要が肝心であると考えます。しかし、これだけでは、理想とする大学病院は構築できません。大学病院は、先生方との医療連携によって支えられ、改善され、成長して行くものであると考えます。良好な医療連携により、「患者中心の医療」は成り立ち、先生方との適切な機能分担によって「根拠に基づいた医療」が実施できるものと思っております。歯科臨床の最前線でご活躍の先生方の後方支援・基幹病院として、その役割を今まで以上に果たして行きたいと決意しております。

どうか、一戸前病院長時代と変わらない先生方のご理解、ご協力、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。病院長就任のご挨拶にかえさせていただきます。

21世紀の医療・歯科医療の方向性

- ・患者中心の医療（Patient-Centered Medicine）
医師・患者の信頼関係確立
患者サービス
医療安全、医療倫理
- ・根拠に基づいた医療（Evidence-Based Medicine）
利用可能な最善の科学的根拠
患者の価値観、期待
臨床的な専門技能

東京歯科大学水道橋病院の理念「思い遣りの心に依る医療」

大学移転後の新しい水道橋病院の姿

副学長 一戸達也



東京歯科大学は昨年引き続き、128名の新1年生をさいかち坂校舎に迎えました。さいかち坂校舎は1年生と2年生で活気に満ち溢れています。水道橋病院は昨年1月の総合受付のオープンに続き、2月から歯科用ユニット40台の総合診療室(2階)の運用が開始されました。7月には高度歯科医療センター口腔インプラント科(3階)と口腔外科(4階)、8月には内科(5階)の改修が完了し、本年1月には眼科(3階)も新しい診療室の運用が開始されました。その他の診療室や手術室も順次改修され、最後に3階の旧第1・第2診療室が29台の歯科用ユニット(うち5台は特診室)を有する高度歯科医療センター保存科・補綴科として改修され、この6月1日から運用が開始されました。以前の水道橋病院が73台の歯科用ユニットで、平日で550～600名、最大で700名程度の患者数であったのに対して、現在は歯科用ユニットが111台となり、平日で600～650名、最大で800名近くの患者さんが来院される病院に変貌しました。ただし、それでも病院機能や学生教育を考えると手狭であることは否めず、できるだけ早い時期に二期工事が開始されることが期待されます。

今後は、大学の移転事業の中で臨床系教員や大学院生がどのタイミングでどの程度の規模で水道橋に移動するか判断が重要になります。6月からは千葉病院保存科と補綴科の教員が10名程度交代で水道橋病院での診療に当たっていますが、9月以降、千葉病院の医療収入の減少を最小限にしつつ、水道橋病院の医療収入を増加させていく必要があります。加えて、今年度いっぱい千葉校舎で学習する5・6年生、9月から水道橋校舎(新館)に移動してくる3・4年生、そしてさいかち坂校舎の1・2年生の教育が疎かになることは許されません。これらの複雑で、しかし大学として当然の役割を果たしていくために、効率的な人的資源の配置や運用を考えなければなりません。井出学長、石井副学長、井上千葉病院長、矢島水道橋病院長ほか教職員の方々と、慎重かつ大胆な発想のもと、移転計画の完成に向けて努力していきたいと思っております。

東京歯科大学水道橋病院は、水道橋移転計画の第一期工事の完成とともに、わが国の最も古い伝統ある大学

の、最も新しい病院に生まれ変わりました。教職員一同、水道橋病院をご利用いただくすべての方にご満足いただけるように努力して参ります。今後も引き続きご指導ご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



高度歯科医療センター 保存科・補綴科完成式



新館から水道橋駅方面を望む

新任の御挨拶

口腔外科 齊藤 力



1972年(昭和47年)に本学を卒業した後、大学院歯学研究科で口腔外科学を専攻しました。その後、本学の口腔外科学第Ⅱ講座(現 口腔外科学講座)の助手、講師、助教授を経て、2001年(平成13年)に新潟大学大学院医歯学総合研究科顎顔面再建学講座組織再建口腔外科学分野(口腔再建外科)に教授として赴任いたしました。本年3月に同大学を退職し、4月より本学の口腔外科学講座客員教授として水道橋病院において口腔外科の診療に当たっております。口の中やその周囲に病気が生じると顔の形にも影響が出るばかりでなく、摂食・咀嚼、嚥下、および発音などの機能にも障害が出ます。

これまで顎顔面口腔領域の先天異常（口唇口蓋裂）、発育異常（顎変形症）、口腔がんなどに対する治療を中心として診療と研究を行ってきましたが、一貫して「形態改善は機能を改善するか」という命題に取り組んできました。出生時にすでに顎顔面の形に異常のみられる口唇口蓋裂などの患者さんに対しては正常に近い顎顔面の形をつくるのみならず、摂食・咀嚼、嚥下、ならびに発音機能も可及的に正常に近づけることに重きをおき、出生時には異常は認められないものの成長発育とともに顔に変形が生じてくる顎変形症（反対咬合や顔面非対称など）に対しては正常に近い顎顔面の形に修正するとともに、前述の各種機能を満足させることの出来る治療法の開発に取り組んできました。また口の中の病気によって舌や顎骨を切除せざるを得ないことがあり、大きな欠損が生じる場合は身体の他の部位から採取した皮膚・筋肉や骨などの移植によって顎顔面の形を作る手術が行われますが、この場合も外見だけでなく、摂食・咀嚼、嚥下、および発音などの各種機能を可及的回復できる手術法の開発や手術器具の改良にも取り組んできました。水道橋病院ではこのような患者さんに対して小児歯科、障がい者歯科、矯正歯科、口腔インプラント科、総合歯科ならびに内科など臨床各科とチームを組んでより良い医療を提供するとともに、患者さんの視点に立った診療を心掛けていきたいと考えておりますので、宜しく御願いたします。

第 11 回東京歯科大学外科的矯正治療勉強会を開催

口腔外科 笠原清弘

平成 25 年 2 月 7 日（木）18 時より、東京ステーションコンファレンス 6 階 605 会議室において、「第 11 回東京歯科大学外科的矯正治療勉強会」が開催されました。千葉、市川、そして水道橋の 3 病院合同となるこの勉強会には、今回も大学の内外問わず多くの矯正歯科医、口腔外科医、そしてクリニックスタッフの方々が参加されました。

今回は「歯科矯正治療における補助手術の診断・治療・予後」をテーマに 3 病院の代表による講演が行われました。また、特別講演として東海大学医学部外科学系形成外科准教授の赤松 正先生をお迎えして、外科的矯正治療における咬合と審美の両立に関して御講演を頂きました。最初に千葉病院口腔外科の高木多加志准教授・山本雅絵助教より、「歯科矯正治療を円滑に行うための補助的手術」と題し、AOS（Accelerated Orthodontic Surgery）とも言われる外科的矯正補

助手術について概要と実際が紹介されました。次いで矯正学講座の西井 康助教より、「外科的補助手術 ―コーチコトミーとディストラクション―」として、主に治療期間の短縮についての解説が行われました。さらに水道橋病院口腔外科の菅原圭亮助教から、「顎変形症患者における智歯抜歯の時期と適応」について、特に術前の智歯抜歯はいつまでに終わらせておくべきかについて言及がなされました。

赤松先生の特別講演は、「顎変形症の治療戦略 ―咬合と審美、両立へのアプローチ―」と題して行われました。審美的センスを重視した上下顎骨切り術、ならびに治療経過中の審美性が保たれる surgery first など、先生の形成外科医としての豊富なご経験から紡ぎだされた治療計画や術式は、我々にとっても新鮮かつ大いに刺激となるものでした。

今回の勉強会（第 12 回）は、「外科的矯正治療のプレディクションとアウトカムについて」をテーマに、平成 25 年 7 月 18 日（木）18 時より東京ステーションコンファレンス 6 階 602 会議室にて開催を予定しております。



特別講演を行う東海大学医学部准教授の赤松 正先生



会場風景：東京ステーションコンファレンス 6 階 605 会議室



Google Earth を使って空から水道橋(左写真)をみてみました。千葉病院(右写真)と等倍(上空 580 m)で比較しますとほぼ同じ範囲に収まるようです。4月より新入生がさいかち坂校舎での大学生活を開始して1, 2年生が揃いました。また9月から3, 4年生が来る新館は、もうすぐ完成する予定です。

平成25年度水道橋病院症例報告会の御案内

開催予定日 平成25年7月25日(木) 18時

水道橋病院では、本年度も医療連携の一環として開業医の先生方へ症例報告会という形で講演会を企画しております。私達は、口腔が全身の一部であることを強く念頭に置き臨床を行っております。皆さま方も日常臨床では多くの基礎疾患と遭遇しその対応に苦慮されていることと思います。今回は糖尿病と歯科の関係を中心に演題が組まれる予定となっております。臨床での一助となれば幸いかと存じます。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

編集後記

水道橋畔発第18号は、東京歯科大学の移転前最終号です。今年9月からは大学本体が千葉から水道橋へ移転となります。本館校舎では、院内の仮診療室で診療を行いながら少しずつ改装を進めていった口腔インプラント科、口腔外科、総合歯科、保存科・補綴科、眼科、内科等の新診療室が完成しました。今回改装されなかった診療科は、二期工事に伴い改装されるそうです。また、上階では新しい講座研究室や教室、会議室等次々と内装が進んでおります。

昨年より工事現場の前を通るたびに、「高くなっている」と感じた新校舎もその外観はほぼ完成して、隣の日大より少しだけ高いようです。ここでは新血脇ホールや教室、実習室、図書館などがはいる、9月の授業開始に向けて急ピッチに工事が進んでおります。

今後の人員配置などの詳しいことはまだ聞こえてきておりませんが、皆様とは引き続きの医療連携を深めていきたいと考えております。

※患者さまには各科の直通電話番号をお知らせさせていただきます様をお願いします。

東京歯科大学水道橋病院 直通電話番号(各科受付)一覧	
総合歯科	03-5275-1721~2
口腔インプラント科	03-5275-1760
小児歯科	03-5275-1723
障がい者歯科	03-5275-1723
矯正歯科	03-5275-1724
口腔外科	03-5275-1725
歯科麻酔科	03-5275-1851
眼科	03-5275-1856
内科	03-5275-1926
放射線科	03-5275-1953
FAX(各科共通)	03-3262-3420

水道橋病院 診療案内

初診受付	平日、土曜とも 午前9時から午前11時
診療時間	平日 午前9時から午後5時 土曜 午前9時から午後12時
休診日	第2土曜、日曜、祝日、 本学創立記念日(2月12日)、年末年始

水道橋畔発編集委員

編集委員長 片田英憲

編集委員 大多和由美、高野正行、山下秀一郎、
仁科牧子、関根秀志、陽田みゆき、
小島桂子、上島文江、菅沼弘春、
村川 孝、杉戸博記、迫田将洋